



事業実施内容

近年、ケニアを含む新興国では非感染性疾患（以下NCD）が増加している。NCDの対策としては早期診断・タイムリーな治療および生活習慣の改善が重要であり、それを実現するためには地方部を含む国全体の診断体制の整備が必須である。

しかしながら、既存の生化学検査システムは大型電源や純水装置、高度な取扱い知識を要するため、物的・人的リソースが不足する新興国の地域医療機関においては配備が進んでいない。

そこで、大型電源・水が不要、かつ簡単な操作で検査可能な生化学検査装置（富士ドライケム・以下FDC）をケニアの地域医療機関に導入し、受診者に対し生化学検査を実施しその有用性を実証することで、NCDの早期診断を通じた人々の健康増進に寄与し、また医療費の抑制に繋げ、国の保健財政改善に貢献することを目指す。有用性の実証のために、以下1~4を実施した。

1. FDC×30台をケニアの地域医療機関（30施設）に導入
2. トレーニングを受けた医療従事者が、受診者に対し生化学検査を実施
3. 検査データを収集・分析し、NCDのリスク対象者数・率を把握
4. 分析結果をケニア政府に共有し、NCDに対するFDCの有用性を確認



FDCを活用した検査の様子



卓上サイズで大型電源・水が不要

事業成果

- ・ケニア広域（28カウンティ）の地域医療機関30施設にFDCを導入し、生化学検査の測定環境を整備した。
- ・事業期間中に6,605人の受診者に生化学検査を実施し、検査データを収集することができた。
- ・収集した検査データから検査項目毎にリスク対象者を拾い上げ、地域医療機関における生化学検査が、ケニアの医療課題であるNCDの早期診断・タイムリーな治療および生活習慣の改善に貢献し得ることが検証できた。
- ・本分析結果をケニアの各カウンティの保健政策を取りまとめる Council of Governors（以下COG）に報告し、NCDに対するFDCの有用性について理解を得るとともに、事業終了後のFDCの継続稼働に向けた支援について合意した。

今後の事業展開

- ・本事業でFDCを導入した地域医療機関に対し生化学検査継続のためのフォローを行うとともに、検査試薬調達ルートを確保し、安定的な試薬販売を実現する。
- ・COGと協働し、ケニア保健省に対して本事業の報告を行い、NCDに対するFDCの有用性について合意を得る。その後も保健省と協議を継続し、ケニアにおけるNCD医療課題の解決に向けた「地域医療機関での定期的な生化学検査実施」を国家の保健政策に織り込むことを提案し、ケニア全土の医療機関におけるFDCの導入と生化学検査の実施を目指す。
- ・本事業の成果・課題を念頭に、ケニアの近隣国を含むアフリカ地域に対するFDCの展開可能性について検討し、更なる導入拡大と新興国の医療課題解決に繋げていく。